

東北大学「図書館のみらい基金」へのご寄附による

# 『漱石文庫』保存箱 整備のご報告

このたび、皆様からのご寄附により、当館所蔵『漱石文庫』を保護するための保存箱を整備させていただきましたので、ご報告申し上げます。

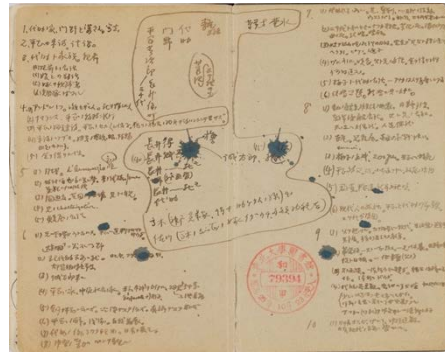
## 『漱石文庫』とは

文豪・夏目漱石の自筆資料および旧蔵書からなるコレクションです。  
 自筆資料には、漱石の肉筆による手帳や日記、ノート、試験問題、創作メモ、手紙など、約800点が含まれます。また、旧蔵書約3,000冊には、その3割に漱石自身による書入れやアンダーラインが記されており、漱石の創作過程を知ることができる貴重な資料群となっています。  
 第二次世界大戦中、当時の本学附属図書館長で、漱石の愛弟子でもあった小宮豊隆の尽力により、本学へ譲渡されました。

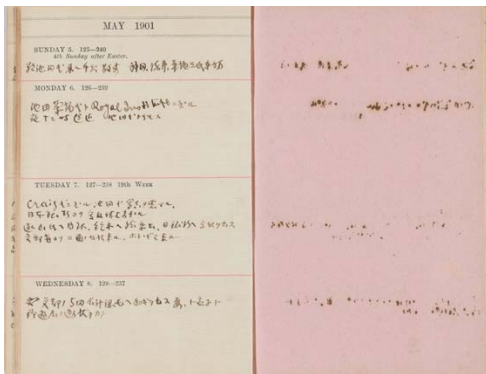
<『漱石文庫』の一部> 「東北大学デジタルコレクション」より  
 (クラウドファンディングでのご支援により、令和2年に撮影・公開)



原稿「道草」



「それから」メモ  
(「修善寺大患日記」より)



『滞英日記』



『ハムレット』への書入れ  
(『The tragedy of Hamlet』より)

当館では、これまでもこの貴重なコレクションの保存に細心の注意を払い、温湿度管理や地震等の災害対策を行ってまいりました。しかしながら、令和3年2月13日に発生した福島県沖地震では、震度5強の強い揺れにより、書架に設置していた落下防止バーを乗り越え、またバーの下をくぐって資料が落下するという状況となりました。

<落下防止バー設置の『漱石文庫』書架>



<令和3年2月13日の福島県沖地震による『漱石文庫』資料落下>



現状の対策では被害を防ぎきれなかったため、新たな対策を調査・検討した結果、落下防止バーを撤去し、代わりに「棚はめ込み式保存箱」を整備することといたしました。令和3年秋、「図書館のみらい基金」から65万円を使わせていただき、オーダーメイドで92箱を作製し、『漱石文庫』の旧蔵書すべてを収納いたしました。

<棚はめ込み式保存箱の設置>



保存箱と棚の上板とに隙間を作らないようにすることで、振動による棚の浮き上がりを防ぎ、箱そのものの落下を防止

開閉式の蓋つきの箱に収めることで、飛び出しによる落下を防止

平積みしていた大判の資料は、フォルダーボックスに収めて箱内に収納

※「棚はめ込み式保存箱」について  
棚と資料のサイズに合わせて、オーダーメイド注文できる蓋つきの保存箱です。材質は貴重資料の保存を目的とした特殊な厚紙となっており、調湿（湿度を一定に保つ）や防塵、遮光などの機能を備えています。  
紙でできていることにより、ガラスや木製の閉鎖棚よりも通気性が良いとされています。  
また、漱石文庫などの古い洋書にみられる酸性紙劣化を抑制するため、一般的な中性紙ではなくアルカリを含ませたアルカリバッファ紙を用いています。

今後も、皆様からの貴重なご寄附を、所蔵資料の公開や保存をはじめとした図書館機能の充実に有効活用させていただきたいと考えております。引き続きご支援のほど、よろしくごお願い申し上げます。

令和3年12月